



2021年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2021年1月6日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 兼 COO (氏名) 小野寺 徹
 問合せ先責任者(役職名) 取締役常務執行役員 兼 CFO (氏名) 平山 直樹 (TEL) 03 (3518) 1900
 四半期報告書提出予定日 2021年1月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年8月期第1四半期の連結業績(2020年9月1日~2020年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年8月期第1四半期	2,785	△2.2	574	21.8	643	35.6	432	33.6
2020年8月期第1四半期	2,847	△5.8	471	7.8	474	8.0	323	6.7

(注) 包括利益 2021年8月期第1四半期 432百万円(33.6%) 2020年8月期第1四半期 323百万円(6.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年8月期第1四半期	24.27	24.26
2020年8月期第1四半期	18.17	18.17

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年8月期第1四半期	21,066	18,881	89.6
2020年8月期	21,419	18,800	87.7

(参考) 自己資本 2021年8月期第1四半期 18,867百万円 2020年8月期 18,791百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年8月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2021年8月期	—	—	—	—	—
2021年8月期(予想)	—	0.00	—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年8月期の連結業績予想(2020年9月1日~2021年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	5,500	△3.4	760	△24.9	830	△18.4	560	△18.9	31.45
通期	11,400	0.1	1,510	△31.0	1,600	△27.1	1,040	△30.2	58.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年8月期1Q	17,804,032株	2020年8月期	17,804,032株
2021年8月期1Q	137株	2020年8月期	137株
2021年8月期1Q	17,803,895株	2020年8月期1Q	17,803,895株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19、以下「新型コロナウイルス」といいます。）の影響が長期化し、個人消費は持ち直しの動きがみられるものの依然として厳しい状況にあります。今後は感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを段階的に引き上げられていくことが推測されますが、当面、厳しい状況が続くと見込まれます。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、デジタル放送受信機の普及に伴い、視聴可能世帯数の割合は全世帯の77.1%（「BS世帯普及率調査」(株)ビデオリサーチ調べ）で推移しており、またBSデジタル放送事業を含む衛星放送メディア分野の広告費は前年比で99.4%と微減、BS放送の広告費においては、前年比で101.1%と微増で推移しております（「2019年 日本の広告費」(株)電通調べ）。更にテレビ通販業界を中心とした各企業では、広告媒体の多様化が進み、引き続き厳しい環境が続いております。

また、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、市場環境においても広告枠の販売不振のほか、感染拡大防止を目的とした番組制作の一部中止に伴う再放送や、アーカイブへの差し替え等大きな影響を受けております。番組制作においてはソーシャルディスタンスを確保するためWEB会議システム等を活用したりリモート収録を行う等、感染拡大の防止と視聴者需要の充足を両立させるべく邁進いたしました。

2020年10月の番組改編では、良質な自社制作番組と外部リソースの最適なミックスによる視聴世帯数の更なる増加を目的として、世界最大級のドキュメンタリーチャンネルである「ディスカバリーチャンネル」と、動物・自然を専門に扱う「アニマルプラネット」が誇る豊富で良質な作品群の中から人気の高い作品を厳選し、ナビゲーターが番組をご案内する『ディスカバリー傑作選』を継続して放送。更に10月からは、火曜・金曜の20時台にも「ディスカバリーチャンネル」の中でも評価と人気の高い作品『BigドリームSmallハウス』、『アメリカ 奇跡の絶景トラベル』等を『密着！夢の家づくり』、『世界なるほど新発見』として放送を開始いたしました。また、中小企業やベンチャー企業に焦点を当て、「ニューノーマル」な経営の鍵となる「SDGs」「M&A」「DX」など、次世代の会社に必要な情報を発信する経済番組『NEXT company』を新たに立ち上げました。

また、人気歌手である八代亜紀さんが豪華ゲストと共に楽しいトークと素敵な歌をお届けする『八代亜紀いい歌いい話』、アニメソング番組の『Anison Days』等の人気番組については内容を更に充実させ放送いたしております。

更に特別番組として、延期となった東京五輪を臨み過去の番組映像や取材アーカイブを活用した『学生柔道 逆境を乗り越えて 体重別選手権2009～2019』や、『BS11ソフトボール中継 日本女子ソフトボールリーグ』を放送し、ローカル局とのコラボレーションでは『京都紅葉生中継2020～古都に息づく「赤」の世界～』をKBS京都と共同制作し放送いたしました。

アニメファンから根強い人気を誇る「ANIME+（プラス）」においては、製作委員会へ出資した作品を含め約40タイトルのアニメ番組を放送いたしました。また、子供向け番組として、「キッズアニメ∞」枠にて『スーパーウィングス』、『ミラキュラス レディバグ&シャノワール』を放送、また絵本の読み聞かせ番組『今日のえほん』を放送いたしております。

上記のとおり、営業面及び費用面の両面において、前連結会計年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受けることとなりました。特に費用面においては、再放送や再編集版への差し替え、新たな試みによる視聴者需要の充足と番組制作継続の両立を図るとともに、番組宣伝や局認知度向上施策を従来以上に効率的に進めコストコントロールに努めました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,785,417千円（前年同期比2.2%減少）となりました。営業利益は574,177千円（前年同期比21.8%増加）、経常利益は643,131千円（前年同期比35.6%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は432,133千円（前年同期比33.6%増加）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ 353,807千円減少し、21,066,175千円（前連結会計年度末比 1.7%減少）となりました。主な要因は、有形固定資産合計が 124,381千円増加したものの、現金及び預金が 483,567千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ 435,523千円減少し 2,184,181千円（前連結会計年度末比 16.6%減少）となりました。主な要因は、未払法人税等が267,514千円、流動負債のその他に含めて表示している未払金が 154,788千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ 81,715千円増加し、18,881,994千円（前連結会計年度末比 0.4%増加）となりました。主な要因は、利益剰余金が前連結会計年度の期末配当 356,077千円の支払により減少したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益 432,133千円の計上により増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年8月期の業績予想につきましては、2020年10月6日付の「2020年8月期 決算短信」で公表しました業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,399,320	10,915,752
受取手形及び売掛金	1,943,310	1,969,133
たな卸資産	359,937	410,142
その他	49,047	40,748
流動資産合計	13,751,615	13,335,777
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,475,116	2,449,123
土地	4,034,756	4,034,756
建設仮勘定	522,720	—
その他(純額)	167,569	840,663
有形固定資産合計	7,200,162	7,324,543
無形固定資産	68,330	90,351
投資その他の資産	399,876	315,503
固定資産合計	7,668,368	7,730,398
資産合計	21,419,983	21,066,175
負債の部		
流動負債		
買掛金	557,801	619,907
短期借入金	500,000	520,000
1年内返済予定の長期借入金	1,900	—
未払法人税等	501,853	234,338
返品調整引当金	52,746	52,204
その他	905,660	658,112
流動負債合計	2,519,961	2,084,562
固定負債		
退職給付に係る負債	80,765	81,153
その他	18,977	18,465
固定負債合計	99,742	99,619
負債合計	2,619,704	2,184,181

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,183,936	4,183,936
資本剰余金	3,517,726	3,517,726
利益剰余金	11,089,605	11,165,662
自己株式	△143	△143
株主資本合計	18,791,125	18,867,181
新株予約権	9,153	14,812
純資産合計	18,800,278	18,881,994
負債純資産合計	21,419,983	21,066,175

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)
売上高	2,847,273	2,785,417
売上原価	1,461,982	1,339,916
売上総利益	1,385,290	1,445,501
販売費及び一般管理費	913,904	871,323
営業利益	471,386	574,177
営業外収益		
受取利息	1	0
保険解約返戻金	3,115	69,130
その他	765	770
営業外収益合計	3,881	69,902
営業外費用		
支払利息	1,025	948
営業外費用合計	1,025	948
経常利益	474,242	643,131
税金等調整前四半期純利益	474,242	643,131
法人税、住民税及び事業税	164,335	212,755
法人税等調整額	△13,638	△1,757
法人税等合計	150,696	210,997
四半期純利益	323,545	432,133
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	323,545	432,133

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2019年9月1日 至2019年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2020年9月1日 至2020年11月30日)
四半期純利益	323,545	432,133
四半期包括利益	323,545	432,133
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	323,545	432,133
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上でのコロナウイルス感染症に関する一定の仮定について)

新型コロナウイルス感染症の拡大については、現在でも尚、継続している状況であります。当社グループでは2021年8月期を通して当該影響が継続し、その後2022年8月期上期にかけて経済状況は徐々に回復していくものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性の判断等の会計上の見積りを行っております。

しかしながら、今後の経過によっては実績値に基づく結果が、これらの仮定及び見積りとは異なる可能性があります。なお、この仮定については、前連結会計年度から重要な変更はありません。